

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和7年度)

2026年 2月 26日

足立区教育委員会 殿

郵便番号 104-0061

所在地 東京都中央区銀座6-6-1 銀座風月堂ビル5F

合同会社 福祉経営情報サービス

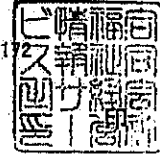
評価機関名

認証評価機関番号

機構 07 - 17

電話番号 03-5537-7750

代表者氏名 渡邊廣貴



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		福祉	H2201038
	②		福祉	H2401039
	③		経営	H0403033
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	小規模保育事業			
調査対象事業所名称	デイジー保育園五反野			
事業所連絡先	郵便番号	120-0015		
	所在地	足立区足立3-10-6ヴァロービル1階		
	電話番号	03-5888-4366		
事業所代表者氏名	坂野梓			
契約日	2025年 7月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2025年 9月 8日			
利用者調査結果報告日	2025年 10月 8日			
自己評価の調査票配付日	2025年 9月 8日			
自己評価結果報告日	2025年 10月 8日			
訪問調査日	2025年 10月 14日			
評価合議日	2025年 12月 16日			
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	利用者調査(アンケート): ・配布は事業所に協力をして頂いた。 事業評価: ・経営層自己評価の中で課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り現状の把握に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

2026年 2月 26日

事業者代表者氏名 株式会社みんなの保育園  
代表取締役 中田幸一郎



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)誰もが安心して笑顔で過ごせること。 2)子どもの成長を保護者と共に喜び、見守るチームとして接する。 3)目に見えない心の体験をすることで豊かな感性や感情を知る。 4)子どもの自主性を活かし、安心安全な環境のもと、子どもを見守っていく。 5)食事に関心を持ち、食を楽しむ。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子ども一人ひとりを理解し、心に寄り添いながら接する。また、みんなでチームとなり、助け合いながら保育していく。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>今に満足せず、新しいことにチャレンジしてほしい。</p>

調査対象	保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。 1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。 子供総数:17 世帯数:16	
調査方法	・調査項目:東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠。 ・事業所への報告:自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。	
利用者総数	17	
利用者家族総数(世帯)	16	
共通評価項目による調査対象者数	16	
共通評価項目による調査の有効回答者数	11	
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	68.8	

## 利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が回答の73%、「満足」が18%、「どちらともいえない」が9%(1件)であり、回答者の91%が「大変満足」「満足」のいずれかを選択している。

総合感想の自由記述では、「保育園に行き始めて様々な刺激を受けて成長している子供を見られて嬉しいです。」「お迎えに行ったときに子どもたちが笑顔で出迎えてくれて、今日も楽しかったんだろうなと感じています。」「デイジー保育園五反野は園長先生から担任の先生、そしてすべての先生が優しく、柔軟に対応していただいていますので、いつもありがたいと思っています。」「少人数であるため他のクラスの先生たちもしっかり子供のことを見てくれて安心できます。」等の回答があった。意見・要望としては、幼児クラスがないことを残念に思う旨の回答や情報伝達に関するコメントが見られた。個別の設問では「無回答・非該当」を除くと、17問中14問で回答者全員が「はい」を選択している。また、すべての設問で自由回答欄への回答が得られている。

なお、以下の利用者調査結果のコメント欄にある選択肢の回答率については「無回答・非該当」を除いた数値を参照して記載している。

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「おおむしを育てたり、触覚遊びをしたりと自宅ではできない体験させてくれてありがたいです。」「散歩に行ったりして良い経験になります。」「保育園に通うようになってから、たくさんおしゃべりが出来る様になりました。また、自分で出来るようなことは積極的にチャレンジする姿がみられる様になりました。」という回答があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「園でのおままごとや制作など楽しんでいると思います。」という回答のほか、「カブトムシに興味を持ったり、水遊びなど充実した様子である。」という旨の回答があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「家庭では普段食べないメニューも、お替りしたと聞くとありがたいと思う。」という内容の回答があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、実施された夏祭りを称賛する回答があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	7	0	1	3
回答者の88%が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、柔軟に対応されているという回答のほか、時間の変更に関する回答があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、お子さんが怪我なく元気に過ごしていることを伝える回答があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	1	0	0
回答者の91%が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、「早めに予定を知らせてもらえるため調整しやすく、案内も丁寧である」旨の回答のほか、行事の開催曜日に関する意見が見られた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、お迎え時の子どもの様子の報告や、怪我の経過報告、トイレトレーニングの相談などの対応から「信頼している」旨の回答があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、保育室内の整理整頓の状態を称賛する回答が見られた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「言葉遣いや態度が丁寧で親しみやすく好印象であり、服装について気になったことは一度もない」という旨の回答があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	1	0	0
回答者の91%が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「気になることは早めに共有してるので信頼している」という内容の回答があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	0	0	3
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「諍いなどは経験していない」という回答があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、お迎え時の様子などから無理強いすることなく子どもの気持ちに寄り添った対応がされていることを伝える回答があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	9	0	0	2
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄にコメントはなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、「連絡帳から楽しそうな様子が伝わってくる程(丁寧に記載されている)」という旨の回答があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では「真摯に向き合ってください先生方だと思っています。」という回答があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	9	0	0	2
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。この設問の自由回答では、今のところ相談事がない旨の回答があった。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	保育理念を丁寧に職員に周知しており、職員に浸透している 保育理念を保育室や休憩室等、園内各所に掲示しており、職員が常に意識できるようにしている。理念浸透策は法人園長会議で園長から職員への意識付けを行うよう呼びかけたことに応じて園内で実践されており、保育理念マニュアルを職員に配布し、運営理念や保育理念、保育方針、保育目標について、会議で内容の確認をするとともに、理念の各文の意味などが伝えられている。職員は理念を基本的に理解しているとのことであったが、今回の第三者評価における職員自己評価においても理念の理解については職員からの高い評価が得られている。	
	園長からは、園の方針や保育の方向性などが職員に伝えられている 保育の方針などは会議で周知されており、子どもと保護者、職員の皆が安心できる環境をつくり、皆が笑顔で過ごせるよう職員一人ひとりが考えて仕事をするを園長から伝えている。また、職員個別の目標設定をする際等に随時面談を実施しており、その際に園や個々の職員が取り組むべき事項やその方向性などが伝えられている。小規模な保育園であるため役職者は園長のみであり、園長が担当する業務およびその手順などは明文化されている。	
	法人と園で相談し合い、一貫性を持った意思決定をしている 重要案件については、園長の発案により法人園長会議・役員会議で審議し決定している。内容については職員会議で報告がされている。法人本部からは園運営で困ったときには何でも相談するように伝えられており、法人役員と相談しやすい環境の中、園単独では判断が難しい事項に関して、法人と園で一貫性を持った意思決定ができることは園の強みと認識している。保護者には文書の掲示により重要な決定事項を周知している。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者意向はアンケートで把握し、職員意向は面談で把握している</p> <p>年1回もしくは2回、運営法人が保護者アンケートを実施している。第三者評価の利用者アンケートを参考にして独自の項目を取り入れ実施されており、本社で集計した回答を得て運営全般について保護者の意向を把握している。また、前年度の保護者アンケートでは保護者の参加する行事を増やして欲しいとの要望があり、今年度は要望に応じて保護者参加行事を増やしている等、把握した意向を改善に活かしている。職員の意向は、年一回実施する人事面談と3か月に一回実施する園長面談で確認し、要望を聞き取っている。</p> <p>地域福祉や保育ニーズの把握に努め、環境を踏まえて運営に関する課題を抽出している</p> <p>法人が月1回開催している家庭生活アドバイザー講座では、外部から講師を招いて保育や食育などの講義を実施しており、園長のほか有志の職員が参加している。このほか、年に3回程度開催される足立区小規模保育園事業者説明会に参加すること等で地域福祉や保育に関する情報を収集している。</p> <p>運営状況は本部との連絡の中で園長が把握しており、本部の業務推進部に保育や人事、運営効率化等の視点で園の現況を伝え、課題の検討をして法人として経営目標と運営戦略を策定している。</p> <p>目標達成のための計画を策定し、半期で見直しして着実に実行している</p> <p>単年度の経営目標と運営戦略は中長期の視点と見直しをもって策定している。単年度目標を達成するための計画は法人内のチームで作成し実行されている。進捗状況の管理では経営目標と運営戦略のまとめを法人内のチームとして半期で実施している。また、試算表や決算予測表を用い、財務面の現況把握と予測により戦略や計画の見直しを実施している。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

### カテゴリー3の講評

#### 保育実践を振り返り、福祉職員としての規律や遵守事項の浸透を図っている

足立区教育委員会が作成している「保育実践振り返りシート」を用い、人権や虐待防止、保育について、面談時のほか必要に応じて随時の振り返りを実施している。また、就業規則内の服務規律および保育者マニュアルを入社時の研修で読み合わせて福祉職員としての規律や心構え、遵守事項の浸透が図られている。

苦情解決制度については重要事項説明書に記載して入園時に保護者に周知している。苦情があったときは苦情受付対応記録に内容や対応、経過を記録し、内容により第三者委員への報告がされている。対応はマニュアルに沿っておこなわれている。

#### 定期的な振り返りと研修により、虐待の予防と対応の体制づくりがされている

虐待防止の取り組みでは対応マニュアルを整備し、振り返りシートを毎年度必ず1回は実施するとともに外部から専門家を招いた職員研修等を実施している。令和7年度は新入職者向けと園長向けにリモートによる研修が実施されており、今後は年1,2回の頻度で職員、園長向けに実施することが決定している。虐待防止の体制については、区内の事例を参考にすることで対応できる体制づくりがされている。

#### ボランティアを積極的に受け入れるなど、地域の福祉に貢献している

ボランティアの窓口サイトに求人広告を掲載し、積極的にボランティアを受け入れている。求人サイトからの応募や直接の問い合わせがあり、令和6年度は学生の体験ボランティアを2名受け入れている。受け入れた際は、ボランティアが保育に関して良い印象を得たり参加して良かったと感じられるよう、体験する内容を考慮し、コミュニケーションを大切に活動してもらっている。

園では定員に空きがあれば一時保育を受け入れている。本部では地域向けに「おもちゃの広場」などを実施しており、法人として地域への専門性の還元に取り組んでいる。

カテゴリ-4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p><b>災害や不審者対応等、訓練を毎月実施して安全性を高めている</b>  災害と感染症についてBCP(事業継続計画)が作成されている。災害BCPでは被災想定や初動、発動基準、復旧目標等を定めており、本部主導で必要な情報がまとめられている。避難訓練は毎月、地震と火災で場所や時間帯の想定をして実施しており、地震後の水害を想定した引き渡し訓練も実施されている。また、水害避難計画を区に提出しており、避難訓練計画に水害想定を組み込み避難先までの避難を実施している。そのほか、不審者訓練は年2回、これも想定や目的を変えて実施されており、子どもの安全を確保することに取り組んでいる。</p> <p><b>事故やヒヤリハットを記録して情報を共有し、予防と再発防止に役立っている</b>  事故予防では記録簿を作成して、病院の受診をした事故について原因と改善策、園長意見、保護者への連絡と受け止めの状況等を記録している。また、ヒヤリハットの収集をしており、今年度は10件程度の記録がある。各記録は回覧により共有し、内容により会議で共有して事故予防と再発防止に役立っている。</p> <p><b>個人情報保護についてはマニュアル類を整備して職員への周知がされている</b>  個人情報保護については、個人情報保護(情報公開)マニュアルが作成されている。また、個人情報の取り扱いに関しては就業規則に記載するほか、保育者マニュアルにも記載して入職者研修で新人職員への周知がされている。園で保管する個人情報については保管場所の施錠を必ず行い、使用している業務支援アプリ(ソフト)やサーバでの情報管理についてはアクセス権を設定して保護をしている。保護者向けには重要事項説明書に個人情報保護に関する内容を詳しく記載して周知がされている。</p>		

カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

#### カテゴリー5の講評

##### 能力向上の目安を職員に示し、人材の育成に取り組んでいる

採用活動は本部が担当し、園長からヒアリングを行い、求める人物像を基準として実施されている。採用後は園長が指導を担当し、また、今年度からメンター制度を導入して入職者のメンタルケアを行い育成がされている。人材育成ではキャリアに応じて必要となる能力や職責を8種類の自己評価シートにより示し、能力向上の目安として職員に開示している。自己評価シートは職員の能力の高まりにより使い分けており、能力や指導力、保護者対応やチームワーク、専門知識、リスクマネジメント等の項目で半期ごとに評価し、その後に園長面談が実施されている。

##### 職員個々の目標設定とその評価を3か月ごとに実施し、スキルアップが図られている

年度当初には職員個々が目標設定シートを使用して年間の目標を設定している。設定する目標は自己評価の項目から選択する目標のほか、本人が強化したいことを園長と相談して決定する強化目標、本人が決定する自由目標があり、設定した目標に沿って3か月ごとの行動計画を立て、自己評価と園長面談、およびフィードバックがされている。また、メンター制度により先輩から後輩にアドバイスする仕組みも整備されつつあり、これらの仕組みの中で職員個々の育成が図られている。

##### 交換研修を取り入れる等、研修体制の充実化を図っている

法人として、新人、初級、ベテランの階層別研修を実施している。また、足立区主催の研修や、本部が主催する「家庭アドバイザー研修」と不適切保育防止研修等を職員が受講している。外部研修は本人の希望する研修と本人に学んでほしい分野の研修に参加できるよう調整している。そのほか、今年度は職員各自が年1回を目標に他事業所との交換研修を実施するなど、研修の充実化が図られている。組織づくりでは、クラス毎に話し合い環境の工夫等をしている。また、日々のコミュニケーションを重んじ、各クラスの状況を全職員が把握できるようにしている。

カテゴリ-7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ-1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p> <p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>職員それぞれの保育を活かしながら、保育理念や保育方針をより理解し、同じ方向性で進めていけるよう、「知識や考え方を共有し、園全体で子どもたちに寄り添い関わっていく」ことを目標として取り組んだ。</p> <p>取り組みとして、園内研修のテーマを定め、「ポジティブな言葉かけ」「熱性けいれん」「職員間の連携」「子どもの意欲を高める環境」の各テーマで意見交換をおこなった。例えば「職員の連携」では、保育目標から討論する内容を決め、どのような子どもの姿が考えられるか話し合い、言葉をかみ砕き、保育へと結びつけることに取り組んだ。</p> <p>結果として、研修で話し合った内容を日々の保育においても意識して子どもに関わることができた。また、環境に関しても、子どもの発達に合わせた環境を検討するようになった。</p> <p>今年度の研修計画は前年度の結果を踏まえて立てており、職員からも前年度の実施内容をもっと深めたいという意見があったことから、今年度はさらに話し合いを深めていくことにした。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>目標は明文化されていないが、職員の意見を聞き年度末の話し合い内容を参考にして、年間で大きなテーマと実施内容を決めている。また、年間の研修テーマは毎年園内研修の内容を決定する際に職員間で共有されている。令和7年度の園内研修は前年度からの発展的な内容で計画されており、「〇〇クンの接し方」「動植物を大切に扱う心」「着脱の意味の伝え方」等、現場に即したテーマ選定となっている。テーマ選定にあたっては、職員がリクエストして話し合っており、現場主導で現場の課題に即した研修をタイムリーに実施している。PDCAを回すことにより保育の質を高めるための研修の内容を毎年度ブラッシュアップさせている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

重要事項に関する取り組みとしては項目1のみが挙げられている。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

重要事項に関する取り組みとしては項目1のみが挙げられている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float:right">○非該当</span>
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>WEBページやSNSでわかりやすく園の情報を発信している</p> <p>法人「みんなの保育園」のWEBページでは保育の理念や方針、目標のほか、ICTの活用についての案内や、英語遊びや文字教室、金芽米を使用して自園で調理する給食のことがわかりやすく伝えられている。また、園のページでは園長のメッセージや、食育や戸外遊びなど園の様子が写真を豊富に取り入れて伝えられている。園のページには保護者専用ページも設置しており、在園児保護者がWEBページを通して、園の日常や行事の様子などを知ることができるようにしている。また、WEBページのほかSNSサイトでも動画等で園の情報を発信している。</p> <p>情報公開サイトや保育園検索サイトに情報を掲載し、広く情報提供をしている</p> <p>園の情報は自社で公開しているサイトのほか、子ども・子育て支援情報公表システムや民間の保育園検索サイトに掲載して、広く情報提供をしている。見学や入園の流れについてはWEBページに掲載されており、見学予約の方法についても記載されている。</p> <p>見学案内時はわかりやすい資料を用いて丁寧に説明をおこなっている</p> <p>見学案内は午前中に設定し、30分程度の時間をかけて実施している。案内の際は見やすく作成された見学用のパンフレットや各サービスに関するチラシを用いて、理念・方針から給食、行事、主活動や英語遊び、SDGsの取り組み、園専属のカメラマンが日常の様子を撮影すること等を伝えている。また、園の特徴として子ども達に「寄り添う」保育を実施している事や、小規模な保育園であるため職員皆が子どものことを解ったうえで保育をおこなっている事は必ず伝えることにしている。</p>	

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>保護者への丁寧な説明や、理解しやすいしおりを作るなどの工夫がされている</p> <p>入園にあたっては、入園前面談時に保護者へ入園に関する書類を配布し、「入園のしおり」を一緒に読み、時間をかけて内容を一つひとつ丁寧に説明している。入園のしおりは、文字の多色使いやイラストを添えるなど、親しみやすく見やすい工夫がされており、保護者が理解しやすいよう配慮されている。</p> <p>また、緊急時対応や虫よけスプレーの使用、WEBページ・SNSの掲載方法と掲載場所など個人情報の取り扱いについても説明し、同意を得ている。同意書類は一度家庭に持ち帰り、記入・署名のうえ、後日提出する流れとなっている。</p> <p>発達や家庭の状況を把握し、保護者と連携して子どもに寄り添う保育を開始している</p> <p>入園時には面談を通して保護者の意向や家庭状況を丁寧に把握し、子ども一人ひとりの状況に応じた支援につなげている。面談では、保育時間や生活リズム、健康状態やアレルギーなど、日常生活に関わる事項を確認し、併せて児童票等を通じて発達の様子や家庭での過ごし方なども把握しており、これらの情報は職員間で共有されている。</p> <p>これらの情報をもとに、子どもが新しい環境の中でも安心して過ごせるよう配慮するとともに、入園後も保護者と丁寧に連絡し合い、成長の過程に寄り添った保育を開始している。</p> <p>新しい環境への移行にあたって、子どもの状況や保護者の気持ちに配慮している</p> <p>慣らし保育については、子どもの様子を丁寧に確認して段階的に進めている。最初は短時間から開始し、水分や食事の摂取、午睡の状況などを見極めつつ、無理のない範囲で保育時間を延ばしている。保護者が早期の就労復帰を希望する場合も、意向を丁寧に聞き取り、子どもの状況を踏まえて対応している。また、卒園に向けて発達等に不安を抱える保護者に対しては、必要に応じて個別面談を実施し、気持ちを受け止め支援をしている。こうした取り組みを通して、子どもが安心して次の環境へ移行できるよう配慮している。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>子どもの日々の状況を丁寧に記録し、情報共有を行い次月の保育に反映させている</p> <p>日々の保育においては、週日案をクラス日誌としても活用して子どもの状況を把握している。日誌には、週のねらいや保護者支援の視点、日毎の子どもの活動や保護者への配慮事項が記録されており、併せて、出欠や連絡事項など子ども一人ひとりの状況を記入する欄も設けられている。また、視診表には検温や体調等の健康状態が日々記録されている。これらの日々の記録をもとに、毎月、児童票や個別目標、月案・個別指導案の見直しが行われ、職員会議等で共有されており、次月の保育計画に反映させる仕組みが整えられている。</p> <p>食育を園の特色とし、子どもの成長の流れを見通した計画が立てられている</p> <p>全体的な計画は園独自に作成されており、食育を特色とした保育が大切にされている。年間指導計画は、5歳児までの育ちを見通した内容となっており、区からの助言も踏まえ策定されている。また、年間指導計画には評価・反省欄が設けられている。月案も前月の振り返りを踏まえた構成となっており、月毎の保育内容を見直し、次月の計画に反映させる仕組みが整えられている。保護者には園だよりを通じて、クラスごとの予定やねらいを周知している。</p> <p>全職員が保育内容を把握しやすいよう環境を整え、日々の保育を次に活かしている</p> <p>毎日子どもの活動の様子について振り返り、日々の関わりの中で見られた変化については、週の振り返りの場で話し合っている。その内容は週日案に記録されている。個人ファイルや日誌ファイルは職員間で共有されている。また、保育室には毎日のねらいが掲示されており、担任以外の職員もその日の保育内容を把握しやすい環境が整えられている。さらに、「お悩み相談」ファイルを活用し、職員が日々の保育で感じた課題を共有・検討することで、次の保育に活かすことに取り組んでいる。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どものタイミングや想いを尊重し、人権や主体性を大切にす保育が実践されている</p> <p>おむつ替えや着替えの際には、トイレのドアを開けて行う、または部屋の隅に仕切りを設置するなど、プライバシーに配慮した環境づくりがされている。午睡や遊びの区切りでの気持ちの切り替えについては、できるだけ子どものタイミングを尊重するよう配慮しており、遊びに集中している場合には、本人の様子を見ながら声をかけている。言葉での表現が十分でない子どもに対しては、気持ちを代弁する声かけを行い、想いを受け止めていることを丁寧に伝えている。人権を大切に子ども主体の保育を意識した環境が整えられている。</p> <p>子どもや保護者を取り巻く環境にも目を向け、安心して過ごせるよう配慮している</p> <p>子どもや保護者の考え方や生活の様子を把握したうえで、状況に応じた対応をしている。子どもの様子について気になることがあれば、家庭での様子を聞き取るとともに園での様子を伝え、お互いに情報を共有して子どもの状況を見守っている。また、保護者が育児や仕事等で心身の負担を感じている場合には、その状況が子育てにも影響することも踏まえ、子どもや保護者を取り巻く環境にも目を向けて保育をしている。子どもや保護者が安心して過ごせるよう配慮されている。</p> <p>虐待防止に向けて、職員が自身の保育を振り返り確認する機会が設けられている</p> <p>区が配布している「保育実践振り返りシート」を活用し、職員一人ひとりが保育の実践を振り返り、その内容をもとに園長との個人面談を行い、保育の在り方について確認しており、職員が虐待防止に関する理解を深める機会となっている。また、入園のしおりには、虐待防止に関する園の対応方針が明確に記載されており、入園時に保護者に説明をおこなうことで、園としての考え方や対応について理解を得られるよう努めている。</p>			

サブカテゴリ-6	
6	事業所業務の標準化 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○●)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○ 非該当
○あり ●なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○●)	
評価	標準項目
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○ 非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○ 非該当
サブカテゴリ-6の講評	
業務全般を網羅するマニュアルを整備し、活用がされている 危機管理やその対応、災害対応、水遊び、虐待、個人情報保護等のマニュアルがあり、業務全般を網羅し整備されている。例えば、危機管理マニュアルでは事故の対応等が細かくマニュアル化されており、不審者対応は具体的に対応方法と手順が示されているなど、実践的で活用しやすい内容になっている。また、保育マニュアル内には、社会人・保育者としての心得、身だしなみ、保護者との関わり、保育者としてしてはいけないこと等、基本的な姿勢も記載し、読み合わせをして各職員が子どもの見本、保育士の代表として行動できるよう浸透が図られている。 気になることがあればマニュアルを参照し、必要に応じて業務の見直しをおこなっている 業務や保育実践面で手順や方法などに気になることがあればマニュアルに照らして確認するなど、マニュアルは必要に応じた活用がされており、令和7年度は嘔吐処理について会議で取り上げ解説がされている。また、マニュアルに合わせて業務を見直すこともおこなっている。マニュアルの見直し・改定については監査で指摘があったときなど、必要に応じた実施となっているため、定期的な点検や見直しの基準を取り決めておくことを勧めたい。 保護者の意見や職員の意向と気づきを、業務や保育実践面の改善・向上に活かしている 運営法人が実施する保護者アンケートの結果を踏まえ、把握した意向を改善につなげている。職員の意見はクラス毎の話し合いによりクラス運営や保育の改善に活かされている。そのほか「お悩み相談」のファイルに書き込まれたテーマについて検討することで、保育実践面の課題解決や質の向上につなげることにも取り組んでいる。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ-4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇)・非該当1		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当		
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当		
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	●非該当		
評価項目1の講評				
<p>発達段階を踏まえた保育が実践され、発達が気になる子どもへの配慮がされている                      0歳児保育室には、音の出る玩具や凹凸のある玩具など、五感に働きかける玩具が用意されており、月齢ごとの発達を踏まえた環境のもとで保育が行われている。発達が気になる子どもについては、区の巡回や保健所職員に日頃の保育の様子を相談するなど関係機関との連携が図られている。また、他児との関わりにおいては、必要に応じて保育者が気持ちを代弁するなどの配慮がされている。現在、配慮が必要な子どもの在籍はないが、受け入れの体制は整えられている。</p> <p>子どもが主体的に関われるよう配慮し、トラブルには個々の状況に応じ対応している                      0歳児保育室では、自分で絵本をめくるなど、子どもが主体的に関われるよう、保育者が子どもの目の高さに合わせて絵本を持ち、言葉を交わしながら読み聞かせをおこなっている。                      噛みつきやけんかなどのトラブルについては、子どもの行動を記録し、その背景を踏まえて対応を検討している。子どもの状況に応じて落ち着いて過ごせる環境を整えたり、気持ちを代弁する声かけを行うなど、個々の様子に応じて対応している。                      こうした事例を振り返り、次の保育に活かすことで、子どもが安心して過ごせるよう配慮した保育が実践されている。</p> <p>異年齢同士の関わりの中で、相手を思いやる気持ちや相手に配慮する姿が見られる                      保育室の扉を開け放して、異年齢同士で行き来し一緒に遊ぶ機会を設けており、環境を変えることで新しい遊びを発見したり、異年齢同士の交流が増えるなどの刺激が生まれている。また、年上児と年下児と一緒に遊ぶ姿は日常的に見られ、子ども同士が相手と関わり遊ぶことでお互いに思いやり、相手を尊重する気持ちが芽生えている。1歳児クラスには外国籍の子どもが在籍しているが、子どもたちはそれを意識することなく、日常の遊びの中で自然に関わっている。</p>				

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当	
●あり ○なし		2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当	
●あり ○なし		4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当	
評価項目2の講評					
<p>連絡アプリへの記録や口頭での引継ぎの徹底により、伝え漏れを防いでいる</p> <p>日々の保育内容や保護者への伝達事項、職員間での申し送り事項については、アプリを活用して共有している。登園時には検温や体調確認を行い、受け入れ時に保護者から確認事項等がある場合には、アプリの申し送り票に入力するとともに、交代時には口頭での引継ぎもおこなっている。降園時も、保護者から受け取った情報をアプリに記録することを徹底しており、職員間で必要な情報を共有できる体制を整えている。丁寧な情報共有により、伝え漏れを防止している。</p> <p>家庭との連携や保育者の関わりを通して、生活習慣が身につくよう支援している</p> <p>子どもの基本的な生活習慣は、家庭での過ごし方が大切だという園の方針のもと、保護者と連携しながら、子どもの生活習慣が整うよう配慮している。保育の中では、洗面所に掲示した手洗い表を活用し、保育者の声掛けを通して子どもが自ら手洗いに取り組めるよう働きかけている。また、散歩後の身支度については、保育者の動きを見ながら子どもが自分で取り組めるよう声かけや対応の工夫をしており、日々の積み重ねを通して基本的な生活習慣が身につくよう支援している。</p> <p>年齢に応じた午睡のタイミングや、子どもに応じた入眠の環境づくりに配慮している</p> <p>午睡については、子どもの年齢や家庭での生活リズムなどを踏まえて支援をしている。乳児は家庭状況や体調に応じて朝寝や夕寝を行い、幼児はそれぞれのタイミングで休めるよう配慮している。午睡時には、落ち着いて眠れる環境づくりをしており、入眠までに時間がかかる子どもに対しては、間仕切りを用いて周囲の刺激を和らげる工夫がされている等、保育者同士で状況を共有し、子どもが安心して入眠できるよう対応している。子ども一人ひとりの様子に応じた関わりを通して、無理なく休息がとれるよう支援している。</p>					
3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当	
●あり ○なし		2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当	
●あり ○なし		4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当	
●あり ○なし		5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当	
●あり ○なし		6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当	
評価項目3の講評					
<p>「やりたい」という気持ちを尊重し、決まりの大切さを意識できるよう支援している</p> <p>子どもが遊びに集中し、次の活動にすぐに移れない場面では、保育者が気持ちを確かめながら声かけをしている。子どもが「まだ遊びたい」という思いを示した場合には、無理に切り替えさせることなく、納得するまで遊び込めるよう環境を整えている。また、2歳児の手洗い時には、床に目印を設けて、洗面所で順番を待てるよう分かりやすく伝えている。順番を守れた際には、「できたね」と言葉をかけ、楽しく順番を意識できるよう配慮している。子どもが気持ちを調整して決まりを意識できるよう支援している。</p> <p>遊びを広げて集団の楽しみ方を工夫し、五感で季節が感じられるよう環境を整えている</p> <p>公園遊びの場面では、茂みで遊ぶ子どもに対し、保育者の目が届く場所で遊べるよう声をかけるとともに、姿が見える場所に戻ってきた際には、その行動を受け止める言葉をかけていた。この関わりをきっかけに遊びがかくれんぼへと展開しており、安全に配慮しつつ、集団で楽しく遊べるよう支援がされている。</p> <p>季節を感じられる活動として、秋には捨ててきた木の突を使った製作、夏には氷に触れる感触遊びを取り入れている。子ども一人ひとりが五感を通して季節の変化を感じ、それぞれの反応や表現を大切にしながら活動に参加できるよう環境を整えている。</p> <p>言葉の興味につながる関わりや、気持ちを体で表現できる環境づくりが大切にされている</p> <p>言葉や表現のやり取りを重ねることで、伝え合う楽しさを感じられるようにしている。乳児の絵本の読み聞かせでは、保育者の言葉に反応して喃語で応じたり、言葉をまねて声に出すなど、言葉への興味につながる姿が見られた。子どもが怒りや悲しみなどの感情を表した際には、その思いを受け止め、自由に気持ちを表せるよう配慮している。また、歌や体操の時間など、楽しさやうれしさを身体で表現できる機会を設けている。こうした関わりにより、子どもが自分の気持ちや思いをのびのびと表現できるようにしている。</p>					

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
◎あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味から行事内容へ発展させ、行事後は振り返りを行い次に活かしている</p> <p>行事や活動の実施にあたっては、子どもの反応や興味をもとに内容を展開する工夫が見られる。秋には、保育室にキノコの写真を掲示したことをきっかけに、子どもたちが関心を持ち、名前を覚えるなど興味が深められた。その流れから、食育活動としてキノコ割りへと発展させるなど、子どもが主体的に取り組めるような働きかけがされている。</p> <p>各行事の実施時は指導案を作成し、活動時間や子どもと保育者の動き、環境設定などを具体的に整理している。行事後には振り返りを行い、その内容を次の行事に反映させている。</p> <p>子どもたちの意見を取り入れ、想いを大切に満足感が得られるよう配慮している</p> <p>行事の実施にあたっては、子どもたちの声をもとに内容を決め、準備の段階から協力して取り組めるようにしている。2歳児のおままごと遊びをきっかけに、子どもたちの意見を取り入れ、夏まつりでのお店屋さんの出店へと遊びを発展させている。</p> <p>保育者は、子どもたちのアイデアを受け止めながら活動を進め、行事後には「みんなでがんばったね」「楽しかったね」と声をかけ、子どもたちの経験や想いを大切に、楽しさや満足感を感じられるよう配慮している。</p> <p>子どもの意欲的な姿を伝え、開催後にはアンケートを通して保護者の声を反映している</p> <p>行事の準備や実施にあたっては、連絡帳を通じて、子どもたちが行事に向けて意欲的に取り組む様子を保護者に伝え、園の取り組みへの理解を深めてもらっている。行事に必要な準備物については、事前に家庭へ協力を依頼し、保護者と連携しながら進めている。食育活動の野菜スタンプでは、家庭からさまざまな野菜が集まり、子どもたちは初めて触れる野菜に興味を持ちながら活動を楽しんでいた。また、保護者が参加する行事の開催後にはアンケートを実施し、寄せられた意見や要望を次の取り組みに活かすなど、保護者の声を反映させる工夫をしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるよう配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
◎あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当
評価項目5の講評		
<p>状況に応じて、保育室の移動や水分補給、休めるスペースの確保などの配慮をしている</p> <p>夕方の保育時間帯は、時間が進むにつれて在園児数が少なくなり、少人数での保育となっている。その状況に応じて保育室を移動し、共同保育とすることで、落ち着いて過ごせる環境を整えている。</p> <p>また、保育時間の長い子どもに対しては、必要に応じて横になって休めるスペースを確保したり、こまめに水分補給を行うなど、心身ともに無理なく過ごせるよう配慮している。こうした工夫により、夕方の時間帯も安心してくつろげる環境がとられている。</p> <p>玩具を変える等で夕方以降の時間も楽しんだり集中できる環境がとられている</p> <p>夕方以降、在園児数が少なくなる時間帯においても、子どもが不安を感じることなく楽しく過ごせるよう工夫している。状況に応じて遊びの内容を変化させ、2歳児のみとなった場合には、0・1歳児クラスで使用している玩具を取り入れたりと、ボールプールなど通常の保育ではあまり使用しない玩具を用意している。押す・引く・回すといった操作性のある玩具は、2歳児にとって新鮮さや懐かしさがあり、楽しんで遊ぶ様子が見られる。また、手先を使って集中して遊べる玩具を取り入れることで、落ち着いて遊び込める環境づくりをしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>生活リズムを整え、落ち着いて楽しく食事が出来るよう環境を整えている</p> <p>子どもの体調や個別状況に配慮して食事を提供している。また、生活リズムを整えることを大切に、トイレへ行き、手を洗ってから給食をとるといった流れを繰り返すことで、子どもが落ち着いて食事の時間を迎えられるようにしている。保育者は、子どもが自ら生活の流れを意識できるよう、声かけにも工夫をしている。調理師は給食中に保育室を回って喫食状況を確認するとともに、食材について子どもと話をするなど交流を図り、食への興味につなげている。</p> <p>素材の味を生かした食事や行事食を取り入れ、地域や家庭と連携した食育が行われている</p> <p>給食では、季節の食材を取り入れ、だしの旨みを生かした薄味の献立とするなど、素材の味を大切にしている。献立には行事に合わせた特別メニューも取り入れるなど、子どもが食に親しめるよう配慮している。また、食育教材を活用し、葉付き野菜や普段目にする事の少ない食材に触れる機会を設けているほか、野菜スタンプの活動では家庭の協力を得て多様な野菜を集めて使用している。散歩時には地域の八百屋さんを訪れ、季節の野菜や果物に親しむなど、保護者や地域と連携した食育が実施されている。</p> <p>発達に応じた経験を大切に食育活動をおこなっている</p> <p>子どもが野菜などの食材に親しみ、興味や関心を深められるよう、月1回食育の時間を設け計画的に取り組んでいる。発達に応じた年間食育計画を作成し、期ごとに振り返りを行い内容を見直して次の活動へつなげている。食育活動は1・2歳児を中心に実施しているが、0歳児も「触れる」「においをかく」など、発達に応じた形で食育に参加している。野菜スタンプや食材を使った触感遊びなど、年齢ごとに関わり方を工夫し、食材に触れる経験を大切にしている。こうした体験を通して食への関心を深めている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>保健計画を作成し、発達に応じた安全への援助をおこなっている</p> <p>年間保健計画を立て毎月健康や安全に関する目標や配慮事項を設定している。夏季であれば水遊びの安全や熱中症対策、水分補給などを意識し、季節毎の留意点を計画に反映して実施している。日々の保育においては、発達段階に合わせた声かけを行い、健康や安全への理解につながるよう援助している。例えば、信号のある場所では2歳児には状況を言葉で伝え、1歳児には手をつないで歩くなど、年齢に応じた関わりを通して、安全に行動する意識が育つよう配慮している。</p> <p>緊急時の体制を整え、感染症等に関する情報は保護者と共有している</p> <p>保育室内にはアレルギー反応時や痙攣時の対応を掲示し、緊急時でも職員が落ち着いて対応できる体制を整えている。感染症については、園内で罹患者が発生した際に速やかに保護者へ周知するとともに、役所から配布される感染症に関する情報を掲示し、注意喚起をしている。内科健診は年4回実施し、事前に保護者から問診票を提出してもらい、健診後に医師から体調面や発達面について気になる点が示された場合にはその内容を共有している。また、身体測定は月1回実施し、結果は健康カードを通して保護者と共有している。</p> <p>SIDSについて丁寧に周知し、午睡時は視診とセンサーを併用して安全を確認している</p> <p>入園前面談の際にSIDSについて保護者に説明を行い、睡眠時の安全確保に関する園の考え方や対応を周知している。また、入園のしおりや保健だよりを通じて、午睡時の見守り方法や注意点について継続的に情報を提供している。午睡時には、仰向けで寝させることや掛け物が顔にかからないよう配慮するなど、基本的な対応を徹底している。0歳児については、SIDSセンサーとタブレットを連携させて睡眠状態を把握しているほか、保育室内にはSIDSに関するポスターを掲示し、職員が常に注意事項を確認できる環境にしている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>家庭の負担軽減や外国籍保護者への配慮をしており、保護者同士の交流機会も設けている</p> <p>園で使用する衣服やエプロン、タオル等については、準備や洗濯を園で行う仕組みを取り入れ、保護者の負担軽減につながる支援をしている。外国籍の保護者に対しては、連絡帳の表現を分かりやすくするほか、必要に応じて電話で直接伝えるなど、内容が正しく伝わるよう工夫している。また、園から困りごとがないか声をかけるなど、安心して相談できるよう配慮している。保育参加の実施日には懇談会を行い、事前アンケートで話したい内容を把握したうえで、保護者同士が交流できる機会を設けている。</p> <p>成長の姿やエピソードを保護者と共有し、共通認識を得て信頼関係を深めている</p> <p>登降園時には、保護者一人ひとりに子どもの様子や出来事について伝えるよう努めている。成長が感じられる姿や、子どもの楽しいエピソードなどを共有することで、保護者が安心し、園での子どもの姿を身近に感じられるよう配慮している。こうした日々のやり取りが、保護者と職員との信頼関係の構築につながっている。</p> <p>また、園のデイリープログラムで発達に合わせた生活習慣の取り組みを保護者と共有している。園日よりでは季節や年齢に沿った絵本を紹介し、子どもの成長や日々の関わりについて保護者との共通理解が深まるよう工夫している。</p> <p>無理なく行事に参加できるよう工夫し、園での子どもの様子を知る機会を設けている</p> <p>年間行事予定には、保護者が予定しやすいよう保護者参加行事に印を付けて配布し、無理なく園の活動に参加できるよう配慮している。年2回実施する保育参加は、子どもの園での生活や成長した姿を実際に知る機会となっている。参加後に実施するアンケートでは、子どもの様子が分かり安心したという声や、他の保護者との交流を楽しめたという声が寄せられている。これらの取り組みにより、保護者が園の保育への理解を深め、子育てへの関心や気づきにつながるよう支えている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>日常とは異なる環境の中で、さまざまな経験や人との関わりが広がるよう配慮している</p> <p>近隣の幼稚園に週に1、2回訪問し、園庭で遊ぶ機会を設けている。園庭では遊具で遊ぶほか、小動物に餌をあげる体験をしている。子どもたちは動物に対して怖がる様子もなく積極的に関わっているとのことであり、興味や関心を広げる機会、貴重な体験の機会となっている。そのほか、地域の児童館を訪れて広場で遊んだり、消防署見学を行うなど、地域とのつながりを生かした活動も取り入れており、地域とのつながりの中で、子どもが多様な経験や人との関わりを重ねられるよう取り組んでいる。</p> <p>地域の人たちと関わり、子どもたちの交流の機会を広げることが大切になっている</p> <p>近隣幼稚園を利用する際には、子どもたちが幼稚園の職員と自然に関わる機会があり、顔を覚えてもらい声をかけられるなど、日常的な交流が生まれており、子どもが職員以外の大人と接する機会にもなっている。</p> <p>今後は行事を通して商店街など地域の人たちとの関わりを広げていくことも視野に入れており、子どもがさまざまな人と触れ合う経験が深まることが期待される。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	食育活動を計画的に実施し、0歳から食材に触れる等、発達に応じた食育を実施している	
内容①	食育活動を月一回実施し、葉っぱが付いた人参や大根、青いバナナ、大きな白菜などの食材を見たり、触れたり、においをかいでみるなど、五感を使った食育をおこない、さまざまな体験から食への興味や関心を高められるようにしている。食育の実施にあたり、発達に合わせた年間食育計画を作成しており、1年を4期に分け、期ごとに反省し、その都度見直して次の活動へ反映させ、活動の充実化を図っている。また、発達に合わせて0歳児も食育に参加し、早い時期から食への興味を持てるよう取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	子どもの気持ちを確認し、意思を尊重して支援をしている	
内容②	会議で職員同士が話し合い、子ども一人ひとりを理解し、一人ひとりに配慮して関わることを心がけている。日常の中で支援・援助をするときは必ず声をかけてからおこなうことしており、視察中も保育の場面では、子どもの気持ちを汲みながら促す言葉がけや、例えば鼻を拭くときや着脱の手伝いをするときなどに「〇〇していい？」「お手伝いしていい？」と、気持ちを確認して援助する保育者の姿が見られた。子どもの気持ちを尊重し自由な感情を受け止め、子ども主体の保育を実践することに取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	職員研修を毎年度充実化させ、保育の質を高めることに注力して取り組んでいる	
内容③	足立区主催の研修や法人の階層別研修に参加するほか、本人の希望する外部研修に参加できるよう調整し極力参加してもらっている。また、今年度は自園と他事業所との交換研修を実施するなど、研修の充実化に取り組んでいる。さらに園内研修では現場に即した研修テーマを職員間での話し合いのもとに選定しており、現場の課題に即した研修を実施し、内容を毎年度ブラッシュアップして知識習得やスキルアップに取り組み、園全体の保育力向上を図っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	アットホームな雰囲気の中、子どもの発達や興味に応じた環境をつくり、温もりのある保育が実施されている
	内容	アットホームな雰囲気の中、子どもの発達に合わせた環境づくりとその向上に取り組み、子どもに寄り添い子どもの笑顔を引き出す関わりを心がけて日々の保育を実践している。室内の環境では各クラスで段ボールやフェルト、牛乳パックなどの材料を使い発達に合わせた手作り玩具を多く取り揃えており、1歳児ではままごとのコンロ台やシンク、2歳児であれば電子レンジなどが用意されている。例えば、子どもたちがアイスに興味を持っていれば、手づくり玩具でアイスを用意しお店屋さんごっこへと繋げるなど、興味を発展させて遊べる環境がつけられている。
2	タイトル	家庭と協力して、子どもが円滑に生活習慣を獲得できるよう細やかな支援が実施されている
	内容	家庭と園が協力して子どもを支える姿勢を大切にしており、子どもの生活リズムや家庭での食事の様子について保護者と情報を共有し、保護者には必要に応じて食事や生活習慣の大切さを伝えている。保育の実践面では、手洗い、トイレ、食事という一つひとつの基本的な生活習慣を、流れとしてつなげていくことを意識し、園での一日の生活リズムを整えることで、子どもが先の見通しを持ち、落ち着いて行動できるような援助をしている。保育者は、子どもが自分で生活リズムを整えることができるよう促す声掛けに配慮し、細やかな援助・支援が実施されている。
3	タイトル	小規模な保育園でもあり、コミュニケーションとチームワークを重視し、その環境を大切にして組織の強みとしている
	内容	ホワイトボードへの書き込みなどにより、クラス間、職員間で業務や子どもに関する情報を共有し、保育の現場においては各職員が声を掛け合い、連携して保育にあたっている。また、職員各自が日々の保育についての悩みや相談事を気軽に伝えあえる「お悩み相談」の仕組みを取り入れているなど、チームワークやコミュニケーションの工夫がなされ、良好な職場環境が維持されている。今回の職員自己評価においても職場の人間関係等について評価する声が多く得られており、働きやすさや就業意欲の向上に寄与しているものと推察された。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中期経営計画の策定を検討すること、また、園の事業計画を活用することを勧めたい
	内容	経営目標、運営戦略については中長期的の視点を持ち年度単位で策定している。事業展望の周知や計画の見える化、経営全般に関する中長期的視点でのPDCAの仕組みとして、また、職員向けに事業経営のアウトラインを伝え、理解を促し、目標等に向けて全社で方向性を合わせていくためのツールとして、中長期経営計画の策定を法人レベルで検討することを勧めたい。加えて、今ある園の事業計画書を意味あるものとして活用していくことを期待する。
2	タイトル	掲示の工夫と整理整頓に取り組むことを期待する
	内容	全体的な計画や重要事項説明書の一部抜粋箇所などを玄関に掲示して保護者に周知しているが、天井に近い場所に掲示されており読むことは難しい。掲示の場所や方法などの工夫・改善をして保護者の目に留まるようにすると良いと思われる。また、玄関付近等、整理・整頓については意識を高めて環境の改善・向上に努めることを推奨したい。
3	タイトル	マニュアルの見直し時期などの基準を取り決めておくことを勧めたい
	内容	マニュアルの活用と必要に応じた見直し・改定がされているが、定期的な点検や見直しの基準を取り決めておくことを勧めたい。毎年度一定の時期に行う、担当者とその範囲を決める、業務とマニュアルのずれがある時の処理方法などを取り決めておく等、無理なく実施できる仕組みがあると良い。